

床ずれと一緒に考える情報誌

Together

トウギャザー

2016年春号

vol. 21

Together

vol. 21

住み慣れた街で
尊厳ある暮らしを——。
変わりゆく
地域包括ケアのいま。

卷頭
レポート

Special Report

アスリートの
ノウハウが活きた
地域包括ケアの新風

リボンリハビリセンターみやのもり
株式会社 two.seven 代表取締役
清水宏保さん

訪問看護
の最前線

地域包括ケアへの挑戦と創造
変わりゆく訪問看護の役割とは

公益財団法人日本訪問看護財団立
あすか山訪問看護ステーション主任
皮膚・排泄ケア認定看護師・介護支援専門員
瀧井 望さん

Taica

平成28年3月31日発行 発行／株式会社タイカ 〒125-0054 東京都葛飾区高砂5-39-4

2016年春号

vol. 21

INFORMATION

2016年度主なタイカの出展スケジュール

これから出展を予定している展示会や学会の日程です。ぜひご来場ください。

●大阪

バリアフリー 2016

日程：4月21日(木)～23日(土)

会場：インテックス大阪(ブース番号 3-504)

体圧分散マットレスのアルファプラスシリーズの新商品を体感できます。
清水宏保さんのトークショーや理学療法士の下元佳子先生のセミナーも開催します。是非お立ち寄りください。

●東京

第3回 日本在宅褥瘡創傷ケア推進協会

日程：7月2日(土)・3日(日)

会場：ヒューリックホール

●横浜

第18回 日本褥瘡学会学術集会

日程：9月2日(金)・3日(土)

会場：パシフィコ横浜

●東京

第43回 国際福祉機器展 H.C.R. 2016

日程：10月12日(水)～14日(金)

会場：東京ビッグサイト

ウェルピー HCに新たな仲間が加わります！

バリアフリー展で
発表します！



ウェーブ(ロング)

サイズ：幅75×長80cm 値格：20,000円(税抜)

ウェーブタイプを15cm長くしました。下肢を大腿の付け根から足首までしっかり支えられるクッションです。



ビーン

サイズ：幅27×長48cm 値格：7,000円(税抜)

ブーメラン(小)タイプを更に小さくしました。ブーメラン(小)では大きくて上肢のポジショニングがうまくできないという小柄な方に適したクッションです。

さらに、今年はマットレスの新商品も多数発表予定！

4月のバリアフリー展で床ずれ発生リスク高度の方向けと軽度の方向けのふたつのマットレスを発表します。みなさまご来場の上、体感してみてください。

●出展予定はホームページでもご確認いただけます。

<http://www.taica.co.jp/pla/>

Together 編集部発

編集長の ひとりごと



タイカでは、今年は中国でも多くの新商品を発売予定。その一部は4月に上海で開催されるCMEF(アジア最大の医療・リハビリ機器展示会)に展示します。CMEFにお越しの際は是非ブースにお立ち寄りください！

Vol.22の
発行は
2016年
6月下旬!

Special Report

アスリートの経験と知識はどのように介護に活かされるのか？介護や医療がアスリートのセカンドキャリアに向く理由とは？北海道札幌市で通所介護施設を運営する、元スピードスケート金メダリスト・清水宏保さんに伺いました。



法人名	株式会社two.seven
施設名	リボンリハビリセンターみやのもり
住所	〒064-0951 札幌市中央区宮の森一条6-2-15
TEL	011-622-0027
FAX	011-622-0028

提供地区	中央区・西区 各区の一部
定員	1部あたり30名
営業時間	月～土曜／午前と午後の2部制 ①9:30～13:20 ②13:40～16:50

アスリートの視点から生まれたリハビリ型ディサービス施設。代表である元スピードスケート・清水宏保さんをはじめ、アスリート経験のあるリハビリ専門知識を備えたスタッフが多く在籍しており、利用者の身体機能を評価してオーダーメイドのプログラムを提供する。清水さん自らが選定したコンピューターと連携するマシンにより、客観的に分かりやすいデータで機能訓練が受けられるのも特徴。リハビリ専門訪問看護「リボン訪問看護ステーション」も併設。

タイカとの連携について

●詳細はP7へ
清水さんが現役選手だったころから始まったお付き合い。トリノ冬季五輪に弊社のキングサイズマットレスを空輸されたこともあります。当時から、身体についての知識量は専門家並だったのが思い出されます。

URL

<http://ribbon-day.jp>

んは、医療や介護こそ、アスリートのセカンドキャリアになると訴えます。
「スポーツ選手は、誰もがケガを経験しています。そこで医師やセラピストのお世話になりますが、最終的にリハビリするのは自分自身。トレーニングの方法やケガの予防にも詳しくはない手はない。ところが、大学院時代に様々な介護施設を見学すると、スポーツ界からの人材はほとんどいませんでした。それを改革したい。スポーツ選手が医療現場に行けるスキルを持つべ、オリンピック選手に税金を投入する意義も出た。そこを改革したい。スポーツ選手が医療現場に行くべきでした。アスリートの経験と知識だけでは浸透性・説得性はま

だ低いので、修士号の実績を裏付けにと考えたんです」

リハビリ特化を実績に訪問看護を新スタート

昨年8月には「リボン訪問看護ステーション」を併設。リハビリに強い訪問看護を確立すべく動き始めています。「國の方針が在宅介護に移る中、通所施設を離なければならぬ人も出でます。そうした方々のために何が必要か考えた時、一つは、より重度の方を受け入れる施設、もう一つが訪問看護でした。通所できない方を在宅でサポートするには、



「ワットバイク」では1秒間におよそ100回のデータが取れる。イギリスでオリンピック選手の能力発掘に使用され、「これでイギリスは19個の金メダルを取りましたよ」と清水さん。

アスリートの経験と知識が色濃くあること。スピードスケート・バスケットボール・マラソンなどの選手経験を持つセラピストが在籍し、関節の可動域、筋力の左右差などを細かな身体評価を行ったうえで、各人の目標に応じた運動プログラムをオーダーメイドします。

「マシンはエアコンントロールに

リボンリハビリセンターみやのもり
株式会社two.seven

代表取締役
清水宏保さん

卷頭
レポート

札幌駅から車で約20分。住宅街の一角にある「リボンリハビリセンターみやのもり」は、2月であることを忘れさせるほど明るく活気な雰囲気に満ちていました。同施設は、元スピードスケート金メダリスト・清水宏保さんが運営するリハビリ特化通所介護施設。様々なマシンが置かれたスポーツジムのようなワンフロアには、多くの利用者が集っています。

スポーツのノウハウでリハビリ機器にこだわる

平成26年11月の開所からこの2月の取材時点で、1年3ヶ月。男女比はほぼ半々という利用者は、当初計画の約3倍となる200人強を集めます。

「こういう場所を探していたんだよ」と、運動の機会を欲していた方も多かったんですね」そう話すのは、同施設の管理者、早川朋希さん。医療管理・

紹介いただき、実際の感想をフィードバックして。そうすることで特徴をご理解いただき、この方なら喜んでくれそうだ、という適切な利用者さんを多くご紹介いただくようになつたのが現在です。□【ミニも増えました】(早川さん)

施設の特徴とは、もちろん、アスリートの経験と知識が色々な方に喜んでくれそうだ、という適切な利用者さんを多く紹介いただくようになつたのが現在です。□【ミニも増えました】(早川さん)

「まずは体験で利用者さんをご紹介いただき、実際の感想を紹介いただき、実際の感想を

アスリートが活きる分野

アスリートが活きる分野評判が上がってきた一方で、まだまだ理解されにくい取り組みもあると清水さん。

【例え】口腔機能訓練。口腔周りの筋肉を鍛えると、十分な栄養の摂取ができ、運動や社会参加に意欲が持て、ちゃんとお腹が空き、食事がおいしくこれまで、それは身体機能の維持につなげ、結果筋力の低下も緩和にできる。口腔周りを鍛える意味を、僕らがもっと周知しなければ

「ス。ボーッが輩出していく」という循環を



「視覚化は大事。脳が刺激されて運動機能も向上していくんです」

上／マシンから個別機能訓練設備、奥にはスリングを使ったグループエクササイズゾーンや休憩所を備えます。「アスリートが使う機械は、そのまま医療に使えるほど優れものですが、目的に合ったリハビリできるものを、僕が実際に試して決めています」と清水さん。
下／施設の一角にはマッサージルームもあり、「高齢者はマッサージを怖がって逆に拘縮するケースもあるので」とウォーターベッドも備える。

右／施設管理とセラピスト管理、利用者の対応など、施設内の業務を一手に引き受けた早川さんは、「常に前向きな清水は新しい挑戦をくれる存在です。僕はブレイキッド」と目を細める。



Interview

訪問看護
の最前線



公益財団法人日本訪問看護財団立
あすか山訪問看護ステーション主任

皮膚・排泄ケア認定看護師・介護支援専門員
瀧井 望さん

Nozomi Takii

千葉県出身。船橋市立医療センターにて循環器科心臓血管外科の病棟ナースとして勤めたのち、結婚を機に東京都北区に移住。育児と仕事を両立を目指し、自宅近くの「あすか山訪問看護ステーション」に平成19年入所。褥瘡係となって経験を積み、平成27年WOCに。現在は日々の訪問看護業務のほか、「褥瘡対策プロジェクト床ずれなくそう！TOKO w TOKO」の講師や世話を務める。

地域包括ケアへの挑戦と創造 変わらゆく訪問看護の役割とは

北区東十条にある「あすか山訪問看護ステーション」は、20年前に日本看護協会の訪問看護部門を独立させて法人化し

た日本訪問看護財団立のステーションです。現在、年間利用者数407名、看護師21名、作業療法士1名、ケアマネジャー2名、事務スタッフ5名で訪問看護と在宅支援事業を行っています。

「訪問看護の利用者は何かしら皮膚の問題を抱えている。治療法や福祉用具の見直しな行っています。

ど取り組むべき点がたくさんある」と話す瀧井望さんにお話を伺いました。

強烈体験で自ら褥瘡係に何が利用者のためなのか

9年前、「あすか山訪問看護ステーション」に入所した瀧井さんは、1年目に強烈な体験をしたと言います。

「脳梗塞で四肢の動きがま痺ら、胃ろう造設もされている患者さんの担当になつたんですけど、うちに講演依頼が舞い込みました」

す。ケアマネジャーさんにお



「at home看護」と名付けた記録情報システムは、パソコンのほか、ステーションから支給される端末（スマートフォン）からも閲覧、書き込みが可能。自宅にいても利用者の情報がスタッフ全員で共有できる。

そんな処置に費やしてしまった反省を真摯に受け止め、訪問看護から病院にフィードバックし双方で話し合いたいと痛切に思いました。現状では、医師や病院との連携が困難な場合が多いんです。創傷被覆材の活用を検討いたくよう提案しても、理解していただけないこともあります。褥瘡ケアの勉強会に介護他職種の皆さんは積極的ですが、医師の参加はまだ少ないのが現状です。利用者さんと同じ目線で相談できる医師が増えることを望んでいます」

それでも、念願のWOCNとなつた瀧井さんは自身の心構えや発言力に変化を感じています。

「勉強したこと根拠に、自信を持って対応できるようにな

公益財団法人日本訪問看護財団立 あすか山訪問看護ステーション

住所 114-0001 東京都北区東十条1-9-12 溝口ビル1階

TEL 03-5959-3121

在宅看護専門看護師、訪問看護認定看護師が在籍。「緩和ケア」「褥瘡」「小児」などのチームを組織し、学びを深める活動を個々のチームが自発的に行っている。また、地域に向けて「小児連携会議」や「小児訪問看護を支える会SUKUSUKU」、地域の看護職同士の連携を図る「北区ナーシングヘルスケアネット」などを運営。東京都より指定を受け、「東京都訪問看護教育ステーション事業」として訪問看護体験・研修も実施する。

床ずれと一緒に考える情報誌
Together



地域の介護他職種の皆さんと

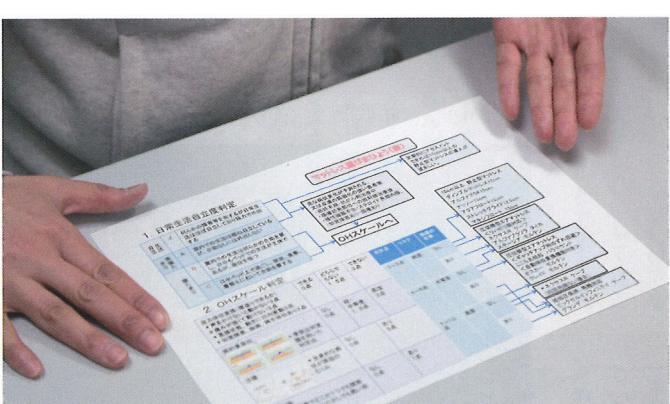
任せしてマットレスを導入したのですが、それでも褥瘡が発生してしまい、それがみるみる悪化していく…。必死に勉強して対応しましたが、結局力及ばず、その患者さんは重度の褥瘡を抱えたまま、肺炎を繰り返して亡くなられました。とてもショックで、無力な自分を責めました

ここから瀧井さんは奮い立ちました。同所に褥瘡に詳しい看護師はなく、「私が勉強せねば」と自ら褥瘡係に立候補。これから瀧井さんは奮い立ちました。同所に褥瘡に詳しい看護師として、マットレスを導入できれば、在宅での褥瘡はかなり減らせます」

例えば、病院で褥瘡を発症してから退院されたのか、それほどに、訪問看護の問題点や壁が明確に見えてきました。隙間で褥瘡を発症し、在宅で看取るというケースも2例ありました。2例の共通点は癌による臀部の知覚障害があつたことでした」

また、主治医から褥瘡の薬を処方されて退院したものの、その薬が褥瘡管理において不適切なものだったということもあつたそう。

「褥瘡の処置は痛みを伴います。亡くなるまでの大切な時間を守るために選べる在宅ではそこ



上／瀧井さんが自作した「マットレス選びまひょう(表)」。日常生活自立度判定とOHスケール判定を利用し、具体的な商品名が導き出せる。数回の研修は必要だが、学べば誰でもマットレス選びができるようになると。下／赤羽にある「あすか山訪問看護ステーション」のサテライトオフィスと常につながるTV会議システム。毎朝のミーティングもこれで行うなど、同所ではITを活用している。

のみならず、この方の病状はいずれこう変化するだろると予測します。生活全般を見ながら、超予防的にリスクを判断したうえでの用具選びは、訪問看護師がリーダーシップを取るべきです。どの家庭でも経済的に無理なく福祉用具が揃えられるよう、制度が変わることも期待しています」

病院勤務のWOCは一千人を超える一方、訪問看護でのWOCは瀧井さんを含め東京に4名のみ。増員が望まれますが、それ以前に、「訪問看護をもっと活用してほしい」と瀧井さんは訴えます。

「居宅サービス利用者の訪問看護利用率は、平成26年度厚労省調査で11.9%。残り88.1%の褥瘡予防は大きな課題です。訪問看護は重度患者が利用するものと思われがちですが、制度的には誰でも利用できる。介護認定がなくとも、医師の指示書があれば医療保険で受けられます。体調チェックを目的に看護師がご利用者宅へ伺って褥瘡予防まですれば、将来的な負担は身体的にも経済的にも軽くなるはず。そうできない今の壁は介護と看護、病院と在宅の間にあります。だからこそ、TOKO w TOKOで、

顔の見える関係を築きたい。他業種の横断的かつ継続的な学習システムを作りたい。全利用者に関するケアマネジャーさんが初期介入で適切なマットレスを導入できれば、在宅の褥瘡はかなり減らせます」

同所内では褥瘡の最高有病率22%から、昨年7月には有病率7.2%、発症率4%まで減少させることができました。

学会や研修会に参加し、熱心に進されれば、重度の利用者の多くが在宅に切り替わることになります。訪問看護の必要性について、皮膚・排泄ケア認定看護師として、地域全体の褥瘡はかなり減らせます」

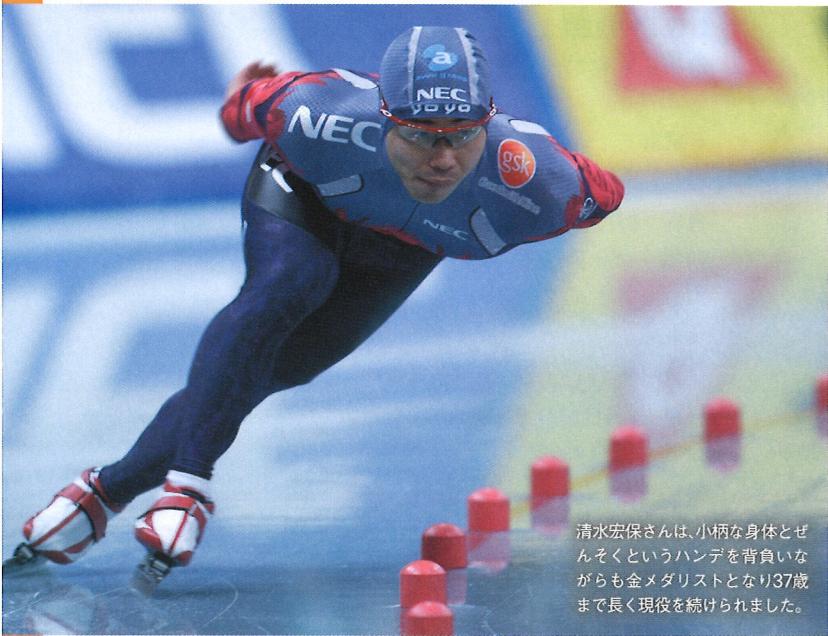
これまで褥瘡を重症化させることはないだろうと考えています。入院中に巨大感染褥瘡を発症し、在宅で看取るというケースも2例ありました。2例の共通点は癌による臀部の知覚障害があつたことでした」

また、主治医から褥瘡の薬を処方されて退院したものの、その薬が褥瘡管理において不適切なものだったということもあつたそう。

「褥瘡の処置は痛みを伴います。亡くなるまでの大切な時間を守るために選べる在宅ではそこ

清水宏保さん×タイカ

タイカと清水さんのお付き合いが始まったのは、まだ清水さんが現役選手だった平成16年からのこと。以来12年、いつもアスリートならではの探究心に驚かされてきました。本誌編集長の狩野が振り返ります。



清水宏保さんは、小柄な身体とぜんそくというハンデを背負いながらも金メダリストとなり37歳まで長く現役を続けられました。

”究め出したら止まらない！” 金メダルはその探究心あつてこそだといつも実感します

「マットレスくらいで…から始まつた縁

(ヨーヨー)という健常者向けのマットレスを開発販売していました。一方、そのころの清水さんは身体づくりを目的とした激しい練習と長年のスピードスケートの独特なフォームから来る負担で、持病の腰痛がかなりひどい状態でした。

そんな清水さんを思いやつて、ホテルのオーナーがYOKOYOを勧めたそうです。後で清水さんに聞くと、「オーナーの気持ちはうれしいけどマットレスくらいでどうなるものでもないでしょ…」という気持ちだったそうです。ところが、ちょっとと寝転がってみてその心地よさにびっくりしたとのことで、その後2ヶ月、ホテル滞在中は抱えていた腰痛を抑え万全な体調管理ができたそうです。

それからしばらくして、ホテルのオーナーを通じて、清水さんからコンタクトをいただきました。当時バリバリの現役でしたし、神の肉体とも言われていて、ピリピリとした求道者というイメージを持つていました。しかし何度も緊張したのを感じています。しかし何度も集中力がものすごい方だと感じました。

そのころ、清水さんと睡眠に

ともに活躍の場を変えて今度は介護の現場で！

私は、初めてお目に掛かる時はとても緊張したのを感じています。しかし何度も集中力がものすごい方だと感じました。

清水さんと一緒に、YOKOYOの金メダリストだといつも感謝せられます。

清水さんが平成18年のトリノ冬季オリンピックに出場された時には、キングサイズのマットレスをイタリアまで空輸しました。この時はユーリーにも取り上げられ「さすが清水！」という風潮になったのを覚えています。今ではアスリートの寝具持参が増えましたが、清水さんがはしりではないでしょうか。

第2回 「座る」ことについて

みなさんの目の前に居られる方は快適でしょう。座つたらいいじゃないですか。気持ち良く車椅子に座つたり落ちそうになつたり、頭をうなだれたりしませんか？ 倦怠したり、ずり落ちる重度だから？ 姿勢が崩れるのでしようか。

障害の重さに関係なく、快適な座位姿勢を作ることは可能です。もちろんその人に合った車椅子を選択し、体に合わせて調整すれば、筋力がないから、障害が重度だからより快

な�试みです。「そこまで必要な声はない」そんな声をよく耳にします。「そこまで必要な声はない」そんな声をよく耳にします。「そこまで必要な声はない」そんな声も聞きます。でも、自分が車椅子ユーザーだったらどうでしょう、体に合わない車椅子で我慢できるで

しょうか。傾いたり、ずり落ちそうで不安な状態が続けば、言葉や表情がなくなり頭もうなだれる。そんな仕方がないと感じます。そこまで必要がない、これで十分と思つて提供した環境が二次障害を作り、より座り難い身体にしてしま

うです。
私たちが使つている椅子、ソファー、それと比べてみてください。食事は食べやすい姿勢になることができるダイニング用椅子で、仕事は効率よく動きやすいう事務椅子で、そして、くつろぎの時間は、部屋と合わせたおしゃれで快適なソファーで音楽を聴いたり会話をしたり。交感神経が働きやすい椅子(環境)、副交感神経が働きやすい椅子(環境)、それぞれの時間に合わせた座位姿勢があるのが私たちの生活です。あたりまえの生活を考えるには、障害の有無に関係なく、その人に合つた、そしてそれと同時に今

の社会レベル全体を見渡して考えることが大事ではないでしょうか。障害があるから車椅子で傾いているのはあたり前、そんな光景が見慣れた景色になつてしまつていませんか。人としてあたりまえの快適な座位姿勢を考えていましましょう。



新連載

下元佳子のつぶやき

Yoshiko Shimomoto



理学療法士、ケアマネジャー、福祉用具プランナー。高知リハビリテーション学院卒業後、病院勤務をへて平成15年に合資会社オファーズを設立。平成20年、高齢者・障害者を取り巻く環境を良くすることを目的に「ナチュラル・ハートフルケアネットワーク」を立ち上げる。生き活きサポートセンターうえらば高知代表。日本在宅褥瘡創傷ケア推進協会理事を務めている。著書に『モーションエイド—姿勢・動作の援助理論と実践法』(中山書店)。

生き活きサポートセンターうえらば高知では年をとっても、障害をもって自分らしく暮らしたい! そんな当たり前の想いが実現できる高知を目指して、高知ふくし機器展を開催しています。今年の第15回高知ふくし機器展(パリアフリーフェスティバル2016)は6月24日(金)~26日(日)開催です。

会場: 高知県立ふくし交流プラザ(高知市朝倉375-1)
主催: 高知福祉機器展実行委員会、生き活きサポートセンターうえらば高知、社会福祉法人 高知県社会福祉協議会